

## 平成31年度（2019年度） 茨城県立鉾田第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させ、一人一人の進路希望の実現を図ると共に、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する、地域に信頼される学校。				
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点的目標	達成状況	
	<p>在校生との男女比がほぼ2：3となっており、生徒の系列希望人数に偏りが見られることから、系列の内容をさらに充実させる必要がある。</p> <p>昨年度に引き続き国公立大学への合格者を出すなど、充実した指導体制ができています。就職についても、社会情勢の影響により早期に内定者を出すことができた。今後、さらに充実した進路実現を図るべく、生徒が主体となった活動に積極的に参加させ、生徒の適正に根差した進路指導を行っていく必要がある。</p> <p>昨年度、特別指導件数は増加しました。自己指導能力をさらに育成する必要があります。</p> <p>部活動の加入率は一昨年度に比べて上げることができた（約60%）。運動部では陸上競技部が関東大会において優勝し、文化部では書道部が全国大会に出場した。今年度も更なる部活動の充実が望まれる。</p>	1 「総合学科」の特色を生かした学校づくりの推進	① 主体的・対話的で深い学びを可能とする魅力ある教育課程の検討を行う。 ② 進路希望を実現するため、学習意欲を喚起し、学力向上に向けた活動を行う。 ③ 本校の特色や生徒活躍の情報を、積極的に中学生や地域に発信し、より多くの受検生を確保する。	B	
		2 生徒一人一人の進路希望を実現するための生徒との「関わり」の深化	④ 3年間を見通した進路に係るガイダンス、面談を組織的に行う。 ⑤ キャリア教育を推進する教育活動の充実を図る。 ⑥ 各種の職場体験活動を通し進路や適正について考える機会をつくる。また、教科と連携し資格取得を促し、就職・進学先の拡大を図る。	A	
		3 基本的な生活習慣と規範意識の定着、及び家庭・関係機関との連携の推進	⑦ 自己指導能力を育成し、基本的な生活習慣と規範意識を定着させる。 ⑧ 自転車・バイクの安全指導やいじめ・SNS等での誹謗中傷の防止・早期発見の対策を定着させる。 ⑨ 家庭・関係機関との連携に努め、問題行動の未然防止及び拡大を防ぐとともに、学校への理解と信頼を深める。	B	
		4 特別活動・部活動等とおした人格の育成	⑩ 生徒会活動や学校行事の企画を工夫し、生徒の人間関係能力を高める。 ⑪ 部活動等を活性化し、礼節や規則を大切にする態度を育む。 ⑫ ボランティア活動や地域連携活動等への積極的な参加を促し、社会性の確立に努める。	B	
		5 安全・安心な教育環境の整備と自己健康管理能力の育成	⑬ 定期的な「安全点検」や清掃活動の充実により、安全・安心な教育環境の整備に努める。 ⑭ 定期的な啓発活動等により、生徒及び教職員の緊急時の対応能力を高めるとともに、自己健康管理能力を高める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	国語	基礎学力の向上	・生徒の学習実態の把握に努め、理解不十分な生徒に対してきめ細かな指導を行う。②	A	・観点別評価を反映した授業の展開（考査偏重の見直し） ・漢字検定の合格者を増やす指導 ・観点別評価基準を教科内で統一する。 ・基礎学力の定着を図るため、きめ細かな指導を目指す。
			・進路希望を実現するため、各科目の言語活動を通して生徒の表現能力を高める。②	B	
			・副教材を活用し、各学年・年次と連携して生徒の語彙力向上に努め、資格取得を促す。⑥	B	
	地歴公民	わかる授業への取組	・科目担当者で連携し、効果的な指導方法や有用な教材の情報交換に努める。②	A	
			・教員の指導力を高めるため、研修等に積極的に参加する。②	B	
		基礎学力の向上	・定期的確認小テストの実施や課題学習を通し、基礎学力の充実・定着化を図ると共に、自学自習の確立を図る。②⑦	B	
	わかる授業への工夫改善	・学習内容を理解させるため、きめ細かな指導を行うとともに、適宜質問の時間を設ける。②	B		
	進路に応じた指導の充実	・教材研究の充実により、学習内容の精選及び明確化を徹底する。②	B		
		・定期考査問題の内容への配慮及び課外・補習などの実施により、生徒の進路希望に応じた学習指導に努める。①	B		

教 科 指 導	数 学	基礎学力の向上	・教科書の内容の精選を図り、生徒の力に応じた指導を図る。②	A	B	・個の能力の差が年々大きくなっている。個々の能力に応じた指導を行い、数学的な見方・考え方を育む。
			・学習内容の理解を深めるため、演習問題を解かせる時間を確保し知識の定着を図る。②	B		
			・考査終了後の学び直しの時間を確保し、基礎学力の定着に努める。②	A		
			・家庭学習の時間を確保するため、適切な課題を与える。②	B		
		進路に応じた指導の充実	・個々の進路希望に応じた課題等を与える。⑦	B		
			・学校設定科目において、教材を精選し、教科内の共通理解のもと指導に当たる。②	A		
	理 科	基礎学力の定着	・生徒の学習の理解度に応じたきめ細かい指導を行う。②	B	B	・基礎学力の定着と計算力の向上を図る。授業内容や試験の難易度を見直し、改善していく。
			・学習の理解を深めるために実験・観察を行い、生徒の興味・関心を高める。②	B		
			・成績不振な生徒に補習を実施して学力の定着を図る。⑥	B		
			・定期的に課題を提出させることにより、家庭学習習慣を定着化させる。②	B		
		進路目的を達成するための学習指導	・学校設定科目等の実施により、生徒の進路に沿った指導を行う。⑥	B		
			・進路実現のための課外授業を実施する。⑥	B		
	保 健 体 育	運動技能の向上	・生徒一人一人にあった課題を設定し、計画的に運動を実践する。②	B	B	・基礎体力の向上・定着、集団行動の定着を図る。 ・個々の技術や技能を高めるとともに、集団競技の中で各々を生かし活躍できる授業展開をすすめる。
			・体づくり運動やランニングなどの簡易運動を取り入れながら実施する。②	A		
		構成・協力・責任などの態度の育成	・互いにゲームのルールや技能を教え合える雰囲気作りをする。②	B		
			・集団行動の重要性を理解し、他者と協力する能力を育成する。⑦	B		
			・能力に応じて、仲間と安全に留意して行えるルールを設定する。②	A		
		生涯を通じて健康的に生活できる資質や能力の育成	・健康的な生活をするための資質や能力を育成する。⑭	B		
	・学校行事等を利用して、生涯を通じて運動に取り組む資質を育成する。⑨		B			
	芸 術	教材の精選・研究と指導の工夫改善	・芸術を愛好する心情を養い、生徒の個性を生かせる教材の選択・研究を行う。②	B	B	・学習意欲をより高め、継続発展させる指導を工夫する。
・主体的な学習活動の指導を研究・実践する。②			B			
英 語	授業の工夫・改善	・同一科目内の担当者間で指導や評価の方法等について協議し、授業改善に生かす。②	A	B	・大学入試改革に対応した授業改善は、CAN-DOリストを用いて評価基準をさらに明確にした指導が引き続き必要となる。英語検定受験者を更に増やしたい。	
		・観点別評価において教科内で協議し、評価の統一を図る。CAN-DOリストを活用した授業を展開する。②	B			
	基礎学力の向上	・習熟の不十分な生徒に対し、課題を与え、補習を実施する。②	A			
		・放課後課外や模試対策等を行い、基礎学力の向上を図る。②	A			
資格取得の支援	・英語検定への受験を勧め、1次試験事前課外、2次試験面接指導を行う。⑥	B				
家 庭	基礎的・基本的な知識と技能の習得	・教科内での共通理解を図り、わかりやすく統一された授業を展開する。②	B	B	・今年度から実施した評価方法や評価基準の見直し検討を行い、次年度に生かしていきたい。 ・地域との連携をさらに深め、つながりを密にしていきたい。	
		・評価規準を明確にし、観点別に評価を行う。②	A			
		・段階見本の作成・活用や教科内研修による指導力の向上により、知識と技能の確実な定着を図る。⑥	B			
地域との連携	・銚田市と連携した事業を実施する。⑥	A				
	安全で衛生的な実習環境の整備	・施設・設備の定期的な清掃と点検を実施し、安全衛生管理を徹底する。⑫	B			
情 報	基礎的・基本的な知識及び技能の習得	・個人の学習理解度を把握し、きめ細かな指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。⑥	B	B	・授業を通して情報モラル等について学習してきたが、SNSトラブルが減少しなかったので引き続き指導を続けていきたい。	
		情報活用能力の育成	・コンピュータ機器等を積極的に活用し、情報活用能力を育成する。②			B
		情報モラルの育成	・授業を通して、情報社会のモラルや態度を育成する。⑦			B
商 業	基礎的・基本的な知識の習得	・学習の理解度に応じてきめ細かな指導や補習を実施し、基礎的・基本的知識の定着を図る。⑥	B	B	・次年度からは受験する検定数が減少するため、できる範囲で良い結果に繋がる指導を行う。	
		資格取得の奨励	・学習の成果として、資格取得を奨励し、合格率の向上を図る。⑥			A
		職業観の育成	・商業、農業の科目を履修し、6次産業について理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。⑥			B
福祉に関する基礎的な知識と	・主体的で実践的な授業展開を工夫するために、学習内容や方法を再検討する。②	A	・系統的に学習を進めると			

教科指導	福祉	介護技術の習得			B	めに全科目の内容の整理をする。
		実習を通じた実践的な態度と職業観の育成	・実習の事前・事後指導を徹底し、実習の成果を発表させることで、事後の学習に反映させる。 ⑥	A		
			・施設実習を通して、職業観や健康管理・マナー・礼節の大切さを身につけさせる。⑦	B		
教務		「総合学科」の特色を生かした教育課程の検討と運営	・統合の効果を発揮できるよう、「総合学科」の特色を生かし、生徒の実態を踏まえながら学科及び系列の魅力を高める教育課程を検討する。①	B	B	・学校説明会の内容刷新
		生徒が自己実現を果たせる時間割の編成	・学年・年次との情報交換を密にし、生徒の進路実現を目指した時間割の編成をおこなう。① ・時間割編成についての研修をととして職員の共通理解を図る。①	B B		
		開かれた学校を目指した地域への情報発信	・ホームページ更新回数を増やし、各種媒体へ情報を提供し本校の活動状況を地域に発信する。③ ・桜芳祭・緑苑祭をはじめ公開授業や学校説明会を工夫し、その内容の充実に努めるとともに、回数を増やす。③	B B		
生徒指導		基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成（校内外でのマナーの向上）	・遅刻ゼロ運動を継続する。段階的な指導を徹底する。⑦ ・登下校指導による、挨拶の励行及び服装指導等を行う。校外においても制服を正しく着用させる指導の徹底を図る。また、公共の場所において正しい判断のもと行動できるようにする。⑦	B B	B	・基本的生活習慣の確立及びマナー向上。 ・SNSの利用によるトラブル防止のために講演会等を実施。保護者も含めての開催を考える
		自転車・原付バイクや四輪車の安全指導。	・原付バイク運転実技講習会や交通講話、安全点検を実施し、交通事故の悲惨さや運転手の責務等について認識させ、交通ルールを遵守させるとともに、交通事故の未然防止及び安全指導を行う。⑧	A		
		いじめ・SNS等での誹謗中傷防止及び早期発見	・いじめはどの生徒にも起こりうる問題であることを十分認識し、生徒の変化を注意深く観察し、声かけをし相談しやすい関係をつくる。⑧	A		
特別活動		特別活動の活性化と自発的活動の促進	・生徒会活動や委員会活動の活性化。生徒達が積極的に活動できるような環境をつくる。各委員会が、年間計画案に基づき活動する。⑩	A	B	・各部活の活動場所（部室も）の清掃が行き届いていない。 ・学校行事の準備を多くの部に割り振って成功させたい。 ・体制や行事の見直し・精選。 ・特色選抜入学者の参加率 ・意欲が低い。今後続けるべきか疑問。 ・新入生部活動見学時の見学カードのやりとり。 ・年度初めのHR役員等の選出にあたって、各委員会の活動内容を十分に周知するべき。
		積極的な部活動への参加と部活動環境の整備	・部活動加入率を高めるため、新入生の年度当初の見学会に必ず行かせることと、教員側も積極的な呼びかけをし、部員確保に努め活発な活動を図る。⑩ ・施設、用具の充実を図り、運動部・文化部がより良い活動が行えるようにする。⑩	A B		
		学校行事の活性化と積極的なボランティア活動への参加促進	・仲間への思いやりや、集団の中での自己の役割を理解し、お互いに協力し合える態度を身につけさせる。⑩ ・学校行事それぞれの意義を理解させ、全生徒が積極的な参加を目的とした指導を展開し、各行事の成功へと結びつける。⑩ ・各種のボランティア活動参加募集の告知を徹底し、積極的な参加を促すようにする。⑫	B A B		
進路指導		進路希望実現に向けた進学、就職指導の充実	・進学希望者対象の課外授業や土曜講座を充実させ、高い学力の育成を図る。② ・就職希望者に対する面談指導を徹底するとともに、基礎学力の向上を図る。②④ ・生徒が主体となった活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。	B A B	A	・進学指導において一貫した指導システムを構築する必要がある。 ・指定校推薦担当者は3学年年次から副担任を一人充てるべき
		キャリア教育による進路意識の高揚	・進路講演会・出前授業等、効果的な進路行事の立案・実施に努める。④ ・各種の資格取得を短期目標に据えさせることにより、進路意識の高揚を図る。⑥ ・各種の職場体験等の取り組みを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図る。⑤	A B A		
		進路に係るガイダンス、カウンセリング機能の充実	・進学・就職ガイダンスを実施して、進路に対する積極的な意識付けを図る。④⑤ ・個別面談を充実させ、進路目標の随時見直しを図る。④ ・生徒・保護者へ提供する進路情報の内容充実に努める。④	A A B		

保健厚生	環境美化の維持	・日々の安全点検・清掃指導の徹底を図り、校舎内外の安全・美化の実現に努める。⑬	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃の徹底</li> <li>・清掃用具の適切な補充管理</li> <li>・安全点検の項目や提出方法の見直</li> <li>・保健だよりの発行回数増</li> <li>・避難訓練や職員研修の適切な運営</li> </ul>
	自己健康管理能力の育成	・「保健だより」等をおとして、健康に対する関心を高め、生徒自身が健康的な生活に取り組める態度や能力を育成する。⑭	B		
		・防災避難訓練をおとして訓練の必要性を認識させると共に、主体的な危機回避能力を育成する。⑭ ・AEDの教職員研修を実施し、緊急時に対応できる資質を養成する。⑭	A		
図書	図書委員会活動の活性化	・委員会の定例化をすすめ、係ごとの活動を円滑に行う。 ・スタッフマニュアルをもとに図書委員すべてが役割を自覚し積極的に活動する。 (図書だよりの発行・館内ディスプレイや展示の工夫・蔵書点検など)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出数増加のために①LHRや授業での図書館利用を推進する。</li> <li>②朝読書の提案をする(学年・学校全体)。</li> <li>・学校司書の配置。</li> <li>・スタッフマニュアル(運営細則)の完成。</li> </ul>
	図書館の利用・活用の推進	・教科・年次(学年)・他分掌との連携により、読書活動を啓発して貸出数を増やす。	B		
		・配架・案内表示などの館内の環境を整備する。	A		
		・購入希望図書の調査を実施する(教員・生徒)	A		
		・教育課程の展開に即応した資料や進路関連図書の充実を図る。①②⑤	A		
図書部運営の円滑化	・担当職員のスタッフマニュアルを作成する。	A			
渉外	学校・家庭・地域社会・関係機関との連携	・各委員会活動・PTA会報・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。また、後援会の援助体制を有効に活用する。⑨	B	B	・行事の役員(保護者)参加率の向上を図る。
教育相談	スクールカウンセラー(S・C)を活用した教育相談体制の充実	・各委員会活動・PTA会報・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。また、後援会の援助体制を有効に活用する。⑨	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修(特別支援教育含)の充実を図り、生徒への関わり方等を学び教育相談における教員の資質向上に繋げる。</li> </ul>
		・教員間の連携を密にし、生徒が抱える問題を早期に発見し、指導方針を立て対応するように努める。	A		
	教育相談における教員の資質や能力の向上	・S・Cと教員の連携や情報共有が円滑に行える体制の確立を図る。⑧	A		
		・「教育相談だより」を発行し、生徒や保護者にS・C配置の相談室を知らせるとともに、気軽に利用できる相談室の整備に努める。⑭	B		
3年次	最高年次としての自覚と基本的な生活習慣の確立	・教育相談に関する情報の提供と、校内研修会の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者の就職試験に向けて、基礎学力を向上させる必要がある。</li> <li>・進路決定後に、意欲の低下が見られる生徒がいた。</li> </ul>
		・教員の相談室利用を促し、S・Cとの相談や助言を通して、生徒への関わり方などについて改めて考え学ぶ機会の確保に努める。	A		
		・マナーやルールを遵守させ、社会人としての責任ある行動や言動ができるように育成する。⑦	B		
	進路実現のための学習指導と進路指導の強化	・時間厳守・期限厳守を徹底させる。⑦	B		
		・自転車・バイク・自動車の交通安全指導の徹底と事故防止に努める。⑧	A		
		・進路希望にあわせたガイダンスや課外、講習会の充実を図り、各種模擬試験や学校説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。④	A		
生徒との積極的な関わりと家庭との連携	・進路に関する個人面談や面接指導を充実させる。④	A			
	・各種資格・検定試験等への積極的な参加をよびかける。⑥	A			
	・普段から家庭との連絡を密にして情報の共有化を図り、あわせて生徒や保護者との面談を充実させて相互理解を図る。⑨	A			

判定基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

## 平成31年度（2019年度）（新）茨城県立鉾田第二高等学校自己評価表

目指す学校像	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させ、一人一人の進路希望の実現を図ると共に、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する、地域に信頼される学校。				
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点的目標	達成状況	
	<p>在校生との男女比がほぼ2：3となっており、生徒の系列希望人数に偏りが見られることから、系列の内容をさらに充実させる必要がある。</p> <p>昨年度に引き続き国公立大学への合格者を出すなど、充実した指導体制ができています。就職についても、社会情勢の影響により早期に内定者を出すことができた。今後、さらに充実した進路実現を図るべく、生徒が主体となった活動に積極的に参加させ、生徒の適正に根差した進路指導を行っていく必要がある。</p> <p>昨年度、特別指導件数は増加した。自己指導能力をさらに育成する必要がある。</p> <p>部活動の加入率は一昨年度に比べて上げることができた（約60%）。運動部では陸上競技部が関東大会において優勝し、文化部では書道部が全国大会に出場した。今年度も更なる部活動の充実が望まれる。</p>	1 「農業科」、「食品技術科」、「総合学科」の特色を生かした学校づくりの推進	① 主体的・対話的で深い学びを可能とする魅力ある教育課程の検討を行う。 ② 進路希望を実現するため、学習意欲を喚起し、学力向上に向けた活動を行う。 ③ 本校の特色や生徒活躍の情報を、積極的に中学生や地域に発信し、より多くの受検生を確保する。	B	
		2 生徒一人一人の進路希望を実現するための生徒との「関わり」の深化	④ 3年間を見通した進路に係るガイダンス、面談を組織的に行う。 ⑤ キャリア教育を推進する教育活動の充実を図る。 ⑥ 各種の職場体験活動を通し進路や適正について考える機会をつくる。また、教科と連携し資格取得を促し、就職・進学先の拡大を図る。	A	
		3 基本的な生活習慣と規範意識の定着、及び家庭・関係機関との連携の推進	⑦ 自己指導能力を育成し、基本的な生活習慣と規範意識を定着させる。 ⑧ 自転車・バイクの安全指導やいじめ・SNS等での誹謗中傷の防止・早期発見の対策を定着させる。 ⑨ 家庭・関係機関との連携に努め、問題行動の未然防止及び拡大を防ぐとともに、学校への理解と信頼を深める。	B	
		4 特別活動・部活動等とおした人格の育成	⑩ 生徒会活動や学校行事の企画を工夫し、生徒の人間関係能力を高める。 ⑪ 部活動等を活性化し、礼節や規則を大切にする態度を育む。 ⑫ ボランティア活動や地域連携活動等への積極的な参加を促し、社会性の確立に努める。	B	
		5 安全・安心な教育環境の整備と自己健康管理能力の育成	⑬ 定期的な「安全点検」や清掃活動の充実により、安全・安心な教育環境の整備に努める。 ⑭ 定期的な啓発活動等により、生徒及び教職員の緊急時の対応能力を高めるとともに、自己健康管理能力を高める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	国語	基礎学力の向上	・生徒の学習実態の把握に努め、理解不十分な生徒に対してきめ細かな指導を行う。②	A	・観点別評価を反映した授業の展開（考査偏重の見直し） ・漢字検定の合格者を増やす指導 ・観点別評価基準を教科内で統一する。 ・基礎学力の定着を図るため、きめ細かな指導を目指す。
			・進路希望を実現するため、各科目の言語活動を通して生徒の表現能力を高める。②	B	
			・副教材を活用し、各学年・年次と連携して生徒の語彙力向上に努め、資格取得を促す。⑥	B	
	地歴公民	わかる授業への取組	・科目担当者で連携し、効果的な指導方法や有用な教材の情報交換に努める。②	A	
			・教員の指導力を高めるため、研修等に積極的に参加する。②	B	
		基礎学力の向上	・定期的確認小テストの実施や課題学習を通し、基礎学力の充実・定着化を図ると共に、自学自習の確立を図る。②⑦	B	
	わかる授業への工夫改善	・学習内容を理解させるため、きめ細かな指導を行うとともに、適宜質問の時間を設ける。②	B		
	進路に応じた指導の充実	・教材研究の充実により、学習内容の精選及び明確化を徹底する。②	B		
		・定期考査問題の内容への配慮及び課外・補習などの実施により、生徒の進路希望に応じた学習指導に努める。①	B		

教 科 指 導	数 学	基礎学力の向上	・教科書の内容の精選を図り、生徒の力に応じた指導を図る。②	A	B	・個の能力の差が年々大きくなっている。個々の能力に応じた指導を行い、数学的な見方・考え方を育む。
			・学習内容の理解を深めるため、演習問題を解かせる時間を確保し知識の定着を図る。②	B		
			・考査終了後の学び直しの時間を確保し、基礎学力の定着に努める。②	A		
			・家庭学習の時間を確保するため、適切な課題を与える。②	B		
		進路に応じた指導の充実	・個々の進路希望に応じた課題等を与える。⑦	B		
			・学校設定科目において、教材を精選し、教科内の共通理解のもと指導に当たる。②	A		
	理 科	基礎学力の定着	・生徒の学習の理解度に応じたきめ細かい指導を行う。②	B	B	・基礎学力の定着と計算力の向上を図る。授業内容や試験の難易度を見直し、改善していく。
			・学習の理解を深めるために実験・観察を行い、生徒の興味・関心を高める。②	B		
			・成績不振な生徒に補習を実施して学力の定着を図る。⑥	B		
			・定期的に課題を提出させることにより、家庭学習習慣を定着化させる。②	B		
		進路目的を達成するための学習指導	・学校設定科目等の実施により、生徒の進路に沿った指導を行う。⑥	B		
			・進路実現のための課外授業を実施する。⑥	B		
	保 健 体 育	運動技能の向上	・生徒一人一人にあった課題を設定し、計画的に運動を実践する。②	B	B	・基礎体力の向上・定着、集団行動の定着を図る。 ・個々の技術や技能を高めるとともに、集団競技の中で各々を生かし活躍できる授業展開をすすめる。
			・体づくり運動やランニングなどの簡易運動を取り入れながら実施する。②	A		
		構成・協力・責任などの態度の育成	・互いにゲームのルールや技能を教え合える雰囲気作りをする。②	B		
			・集団行動の重要性を理解し、他者と協力する能力を育成する。⑦	B		
			・能力に応じて、仲間と安全に留意して行えるルールを設定する。②	A		
		生涯を通じて健康的に生活できる資質や能力の育成	・健康的な生活をするための資質や能力を育成する。⑭	B		
	・学校行事等を利用して、生涯を通じて運動に取り組む資質を育成する。⑨		B			
	芸 術	教材の精選・研究と指導の工夫改善	・芸術を愛好する心情を養い、生徒の個性を生かせる教材の選択・研究を行う。②	B	B	・学習意欲をより高め、継続発展させる指導を工夫する。
・主体的な学習活動の指導を研究・実践する。②			B			
英 語	授業の工夫・改善	・同一科目内の担当者間で指導や評価の方法等について協議し、授業改善に生かす。②	A	B	・大学入試改革に対応した授業改善は、CAN-DOリストを用いて評価基準をさらに明確にした指導が引き続き必要となる。英語検定受験者を更に増やしたい。	
		・観点別評価において教科内で協議し、評価の統一を図る。CAN-DOリストを活用した授業を展開する。②	B			
	基礎学力の向上	・習熟の不十分な生徒に対し、課題を与え、補習を実施する。②	A			
		・放課後課外や模試対策等を行い、基礎学力の向上を図る。②	A			
資格取得の支援	・英語検定への受験を勧め、1次試験事前課外、2次試験面接指導を行う。⑥	B				
家 庭	基礎的・基本的な知識と技能の習得	・教科内での共通理解を図り、わかりやすく統一された授業を展開する。②	B	B	・今年度から実施した評価方法や評価基準の見直し検討を行い、次年度に生かしていきたい。 ・地域との連携をさらに深め、つながりを密にしていきたい。	
		・評価規準を明確にし、観点別に評価を行う。②	A			
		・段階見本の作成・活用や教科内研修による指導力の向上により、知識と技能の確実な定着を図る。⑥	B			
地域との連携	・銚田市と連携した事業を実施する。⑥	A				
安全で衛生的な実習環境の整備	・施設・設備の定期的な清掃と点検を実施し、安全衛生管理を徹底する。⑫	B				
情 報	基礎的・基本的な知識及び技能の習得	・個人の学習理解度を把握し、きめ細かな指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。⑥	B	B	・授業を通して1年生には情報モラル等について学習してきたが、SNSトラブルが減少しなかったので引き続き指導を続けていきたい。	
	情報活用能力の育成	・コンピュータ機器等を積極的に活用し、情報活用能力を育成する。②	B			
	情報モラルの育成	・授業を通して、情報社会のモラルや態度を育成する。⑦	B			
農 業	農業に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得	・生徒一人一人の多様な個性及び理解度に応じた授業と実験実習を展開し、基礎・基本を大切にしたい。わかりやすい指導方法の確立に努める。② ・プロジェクト学習を主にした体系的な実験実習を取り入れ、生徒の知識・技術の定着を図り、人間性豊かな職業人育成を目指す。②⑤	A	・引き続き事故防止に努め、知識・技術の定着をはかるとともに、農業クラブ大会でも成果を残す		

教科指導	農業	事故防止の徹底	・農場や実験室の環境整備並びに施設・設備や農業機械の点検整備を充実させる。⑬	A	A	ことを目標に、学習指導を行う。 ・また、GAP取得に関する取り組みについても触れ、生徒の意識を高める一助とする。
		資格取得の推進	・安全教育を主とした授業や実験実習を展開し、事故及びヒヤリ・ハットの防止に努める。⑭			
		環境教育の実践	・ポジティブリスト制度や適正農業規範（GAP）に沿った授業や実験実習を展開し、安心・安全な農産物の栽培法を定着させる。①②	B		
	食品技術	食品に関する知識・技術の習得	・基礎・基本を大切にし一人一人に対して、わかりやすい指導方法の確立に努める。①②	A	B	・引き続き、安全・衛生指導を徹底し、生徒の意識づけを行う。資格取得についても成果が残せるよう指導を継続する。
		事故防止の徹底	・生徒の安全に配慮した実験・実習を展開する。また、食品衛生に徹した生産及び販売を実践する。⑬⑭	B		
		資格取得の推進	・個々の生徒の目的意識を高め、「危険物取扱者試験」の資格取得を支援する。②⑤	B		
	商業	基礎的・基本的な知識の習得	・学習の理解度に応じてきめ細かな指導や補習を実施し、基礎的・基本的知識の定着を図る。⑥	B	B	・次年度からは受験する検定数が減少するため、できる範囲で良い結果に繋がる指導を行う。
		資格取得の奨励	・学習の成果として、資格取得を奨励し、合格率の向上を図る。⑥	A		
		職業観の育成	・商業、農業の科目を履修し、6次産業について理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。⑥	B		
	福祉	福祉に関する基礎的な知識と介護技術の習得	・主体的で実践的な授業展開を工夫するために、学習内容や方法を再検討する。②	A	B	・系統的に学習を進めるために全科目の内容の整理をする。
		実習を通じた実践的な態度と職業観の育成	・実習の事前・事後指導を徹底し、実習の成果を発表させることで、事後の学習に反映させる。⑥	A		
			・施設実習を通して、職業観や健康管理・マナー・礼節の大切さを身につけさせる。⑦	B		
教務	「農業科」・「食品技術科」・「総合学科」それぞれの特色を生かした教育課程の検討と運営	生徒が自己実現を果たせる時間割の編成	・統合の効果を発揮できるよう、「農業科」・「食品技術科」・「総合学科」の特色を生かし、生徒の実態を踏まえながら学科及び系列の魅力を高める教育課程を検討する。①	B	B	・産社ノートの改訂の必要性 ・学校説明会の内容刷新
		開かれた学校を目指した地域への情報発信	・「総合学科」の生徒の履修計画の一助となるように、「産業社会と人間 学習ノート」を作成し、効果的に活用する。④	B		
			・学年・年次との情報交換を密にし、生徒の進路実現を目指した時間割の編成をおこなう。①	B		
			・時間割編成についての研修をとおして職員の間で共通理解を図る。①	B		
			・ホームページ更新回数を増やし、各種媒体へ情報を提供し本校の活動状況を地域に発信する。③	B		
			・桜芳祭・緑苑祭をはじめ公開授業や学校説明会を工夫し、その内容の充実にも努めるとともに、回数を増やす。③	B		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立及び自己指導能力の育成（校外でのマナーの向上）	自転車・原付バイクや四輪車の安全指導。	・遅刻ゼロ運動を継続する。段階的な指導を徹底する。⑦	B	B	・基本的な生活習慣の確立及びマナー向上。 ・SNSの利用によるトラブル防止のために講演会等を実施。保護者も含めての開催を考える
			・登下校指導による、挨拶の励行及び服装指導等を行う。校外においても制服を正しく着用させる指導の徹底を図る。また、公共の場所において正しい判断のもと行動できるようにする。⑦	B		
			・原付バイク運転実技講習会や交通講話、安全点検を実施し、交通事故の悲惨さや運転手の責務等について認識させ、交通ルールを遵守させるとともに、交通事故の未然防止及び安全指導を行う。⑧	A		
	いじめ・SNS等での誹謗中傷防止及び早期発見	・いじめはどの生徒にも起こりうる問題であることを十分認識し、生徒の変化を注意深く観察し、声かけをし相談しやすい関係をつくる。⑧	A			
特別活動	特別活動の活性化と自発的活動の促進	積極的な部活動への参加と部活動環境の整備	・生徒会活動や委員会活動の活性化。生徒達が積極的に活動できるような環境をつくる。各委員会が、年間計画案に基づき活動する。⑩	A	B	・各部活の活動場所（部室も）の清掃が行き届いていない。 ・学校行事の準備を多くの部に割り振って成功させたい。 ・体制や行事の見直し・精選。 ・特色選抜入学者の参加率・意欲が低い。今後続けるべきか疑問。
			・部活動加入率を高めるため、新入生の年度当初の見学会に必ず行かせることと、教員側も積極的な呼びかけをし、部員確保に努め活発な活動を図る。⑩	A		
			・施設、用具の充実を図り、運動部・文化部がより良い活動が行えるようにする。⑩	B		
			・仲間への思いやりや、集団の中での自己の役割を理解し、お互いに協力し合える態度を身につけさせる。⑩	B		
			・学校行事それぞれの意義を理解させ、全生徒が積極的な参加を目的とした指導を展開し、各行事の成功へと結びつける。⑩	A		
		・各種のボランティア活動参加募集の告知を徹底し、積極的な参加を促すようにする。⑫	B			

					<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生部活動見学時の見学カードのやりとり。</li> <li>・年度初めのHR役員等の選出にあたって、各委員会の活動内容を十分に周知するべき。</li> </ul>
進路指導	進路希望実現に向けた進学、就職指導の充実	・進学希望者対象の課外授業や土曜講座を充実させ、高い学力の育成を図る。②	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導において一貫した指導システムを構築する必要がある。</li> <li>・指定校推薦担当者は3学年年次から副担任を一人充てるべき</li> </ul>
		・就職希望者に対する面談指導を徹底するとともに、基礎学力の向上を図る。②④	A		
	・生徒が主体となった活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。	B			
	キャリア教育による進路意識の高揚	・進路講演会・出前授業等、効果的な進路行事の立案・実施に努める。④	A		
	・各種の資格取得を短期目標に据えさせることにより、進路意識の高揚を図る。⑥	B			
進路に係るガイダンス、カウンセリング機能の充実	・各種の職場体験等の取り組みを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図る。⑤	A			
	・進学・就職ガイダンスを実施して、進路に対する積極的な意識付けを図る。④⑤	A			
	・個別面談を充実させ、進路目標の随時見直しを図る。④	A			
保健厚生	環境美化の維持 自己健康管理能力の育成	・生徒・保護者へ提供する進路情報の内容充実に努める。④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃の徹底</li> <li>・清掃用具の適切な補充管理</li> <li>・安全点検の項目や提出方法の見直</li> <li>・保健だよりの発行回数増</li> <li>・避難訓練や職員研修の適切な運営</li> </ul>
		・日々の安全点検・清掃指導の徹底を図り、校舎内外の安全・美化の実現に努める。⑬	B		
		・「保健だより」等をおして、健康に対する関心を高め、生徒自身が健康的な生活に取り組める態度や能力を育成する。⑭	B		
図書	図書委員会活動の活性化	・防災避難訓練をとおして訓練の必要性を認識させると共に、主体的な危機回避能力を育成する。⑭	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出数増加のために</li> <li>①LHRや授業での図書館利用を推進する。</li> <li>②朝読書の提案をする(学年・学校全体)。</li> <li>・学校司書の配置。</li> <li>・スタッフマニュアル(運営細則)の完成。</li> </ul>
		・AEDの教職員研修を実施し、緊急時に対応できる資質を養成する。⑭	A		
	図書館の利用・活用の推進	・委員会の定例化をすすめ、係ごとの活動を円滑に行う。	A		
		・スタッフマニュアルをもとに図書委員すべてが役割を自覚し積極的に活動する。(図書だよりの発行・館内ディスプレイや展示の工夫・蔵書点検など)	A		
		・教科・年次(学年)・他分掌との連携により、読書活動を啓発して貸出数を増やす。	B		
図書部運営の円滑化	・配架・案内表示などの館内の環境を整備する。	A			
・購入希望図書の調査を実施する(教員・生徒)	A				
・教育課程の展開に即応した資料や進路関連図書の充実を図る。①②⑤	A				
・担当職員のスタッフマニュアルを作成する。	A				
渉外	学校・家庭・地域社会・関係機関との連携	・各委員会活動・PTA会報・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。また、後援会の援助体制を有効に活用する。⑨	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の役員(保護者)参加率の向上を図る。</li> </ul>
教育相談	スクールカウンセラー(S・C)を活用した教育相談体制の充実	・教員間の連携を密にし、生徒が抱える問題を早期に発見し、指導方針を立て対応するように努める。⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修(特別支援教育含)の充実を図り、生徒への関わり方等を学び教育相談における教員の資質向上に繋げる。</li> </ul>
		・S・Cと教員の連携や情報共有が円滑に行える体制の確立を図る。⑧	A		
	・「教育相談だより」を発行し、生徒や保護者にS・C配置の相談室を知らせるとともに、気軽に利用できる相談室の整備に努める。⑭	B			
教育相談における教員の資質や能力の向上	・教育相談に関する情報の提供と、校内研修会の充実を図る。	A			
・教員の相談室利用を促し、S・Cとの相談や助言を通して、生徒への関わり方などについて改めて考え学ぶ機会の確保に努める。	A				
農場部	農業に関する基礎的、基本的な知識と技術及び実践力習得の推進	・体験的教育活動をとおし、勤労意欲の醸成と基礎的な知識及び技術に基づく実践的な能力態度を育成する。①②⑤	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校完成年度を迎えるにあたり、体制を整えていく必要がある。</li> <li>・緊急時の対応能力向上のための研修会を設ける。</li> </ul>
	農業クラブ関係行事や校内外の各種行事への積極的参加	・緑苑祭やホコノッコ・ファンクラブなどの対外的な行事をとおし、専門教育の成果を広報するとともに、各種イベントへの参加などにおいて地域社会との連携を図り、生徒の社会的資質向上に努める。①③⑫	A		



農 場 部		・体験的専門教育を基とした学校農業クラブ活動を実践し、科学性・社会性・指導性の醸成を図る。①②⑫	B	
	農業専門教育の充実	・農業技術の進歩や産業の動向に対応した指導を目指し積極的な研修を行い教職員の更なる資質向上に努める。①②⑤	B	
1 学 年 ・ 年 次	基本的生活習慣の確立	・欠席，遅刻，早退の防止に努める。⑦	B	B
		・時間厳守の徹底，具体的には授業前の振鈴着席を徹底する。⑦	C	
	家庭学習の習慣化	・頭髪服装指導を実施し，身だしなみの大切さを理解させる。⑦	B	
		・マナーやルールを守れる生徒を育てるために，規範意識の向上を図る。⑦		
進路指導及び系列選択・科目選択の指導の充実	・定期的な課題学習や小テスト等において，基礎学力の定着を図る。②	C		
	・週末課題を活用し，家庭学習の習慣を身に付けさせる。②	C		
2 学 年 ・ 年 次	進路指導及び系列選択・科目選択の指導の充実	・「産業社会と人間」の授業を通して，卒業後の進路を見据えた系列・科目選択をさせる。④	B	B
		・進路講演会・進路ガイダンス・卒業生座談会等を計画し，多様な進路に対する実践的知識を習得させる。⑤	B	
	基本的生活習慣の確立の更なる徹底	・欠席，遅刻，早退の防止に努め，授業前の振鈴着席等の時間厳守を徹底し，頭髪服装指導により身だしなみを整えさせる。⑦	B	
		・実社会に出た時に，責任ある行動がとれるように，マナーやルールを守れる生徒を育てる。⑦	B	
基礎学力の定着と進学に向けての学力向上	・進路希望の実現をめざし，課題を継続して行い学習習慣を定着させる。④	B		
	・進路ガイダンス等進路情報を生徒に与えていくことで進路意識を高揚させる。④			
家庭との連携強化	・学年・年次通信の発行や家庭との電話連絡等を密に行い保護者との好ましい関係をつくることで，生徒指導が円滑にできるようにする。④	B		

・進路別ガイダンスを企画する。  
・規範意識を持った生徒が少ないので指導を徹底して行く必要がある。

・服装指導スカート、ボタン等。  
・来年のために言葉遣いがもう少しできるようになればと思う。いつもの癖が出てしまうため。  
・卒業後の進路に向けて連絡の徹底家庭の協力を得る。

判定基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった